R020222

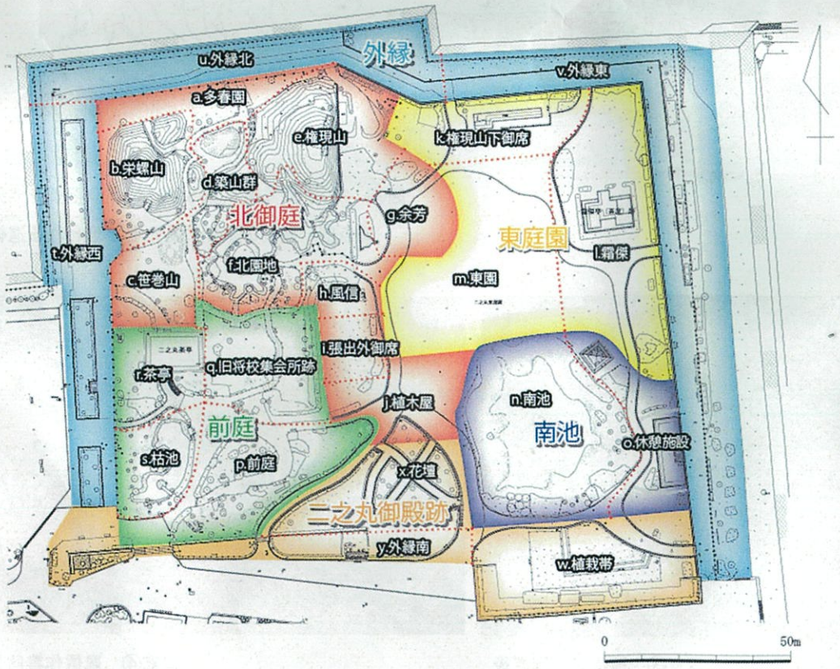
名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査現地説明会資料

1. 名勝名古屋城二之丸庭園の沿革

名古屋城二之丸庭園は尾張藩初代藩主義直（よしなお）の代に築庭されました。当時は儒教の影響を色濃く反映した庭園であったことが絵図から判ります。その後、文政（ぶんせい）期（19 世紀初め）の 10 代藩主斉朝（なりとも）の代には大きく改修され、現在の東御庭まで範囲が拡張された回遊式庭園になりました。

明治を迎え陸軍が駐屯するようになると、二之丸庭園は一部を残して多くは取払われましたが、幸い庭園の核心部である北西部は残され、その南側に新たに前庭が整備されました。その後、太平洋戦争中に天守や本丸御殿は空襲によって炎上焼失しましたが、庭園は周辺の兵舎共々、幸運にも戦火を免れ終戦を迎えることができました。

終戦後は陸軍の兵舎は名古屋大学の学生寮として利用されました。昭和 28 年には江戸時代の庭園が残っていた北御庭の一部と近代に築庭された前庭が名古屋城二之丸庭園として国の名勝に指定されています。その後、昭和 40 年代末から 50 年代にかけて整備が行われ、一般公開され現在に至っています。



図①　二之丸庭園

2. これまでの調査成果

発掘調査は昭和 40 年代末から 50 年代にかけての公園整備に先立って行われ、その成果を基に東御庭の「霜傑（そうけつ）」や南池等が整備公開されました。その後、二之丸庭園の保存整備に伴う発掘調査が平成 25 年から開始され、現在も継続して実施されています。その結果、陸軍の兵舎があった東御庭でも近代の建物による破壊を受けていない近世の遺構が良好な状態で地下に残っていることが判りました。また陸軍によって改修された栄螺山（さざえやま）や半分削平された権現山については発掘調査の成果や絵図を基に江戸時代の姿に復元修復されつつあります。こうした成果によって平成 30 年には名勝の指定範囲が大きく広がり、庭園のほぼ全域が追加指定されました。

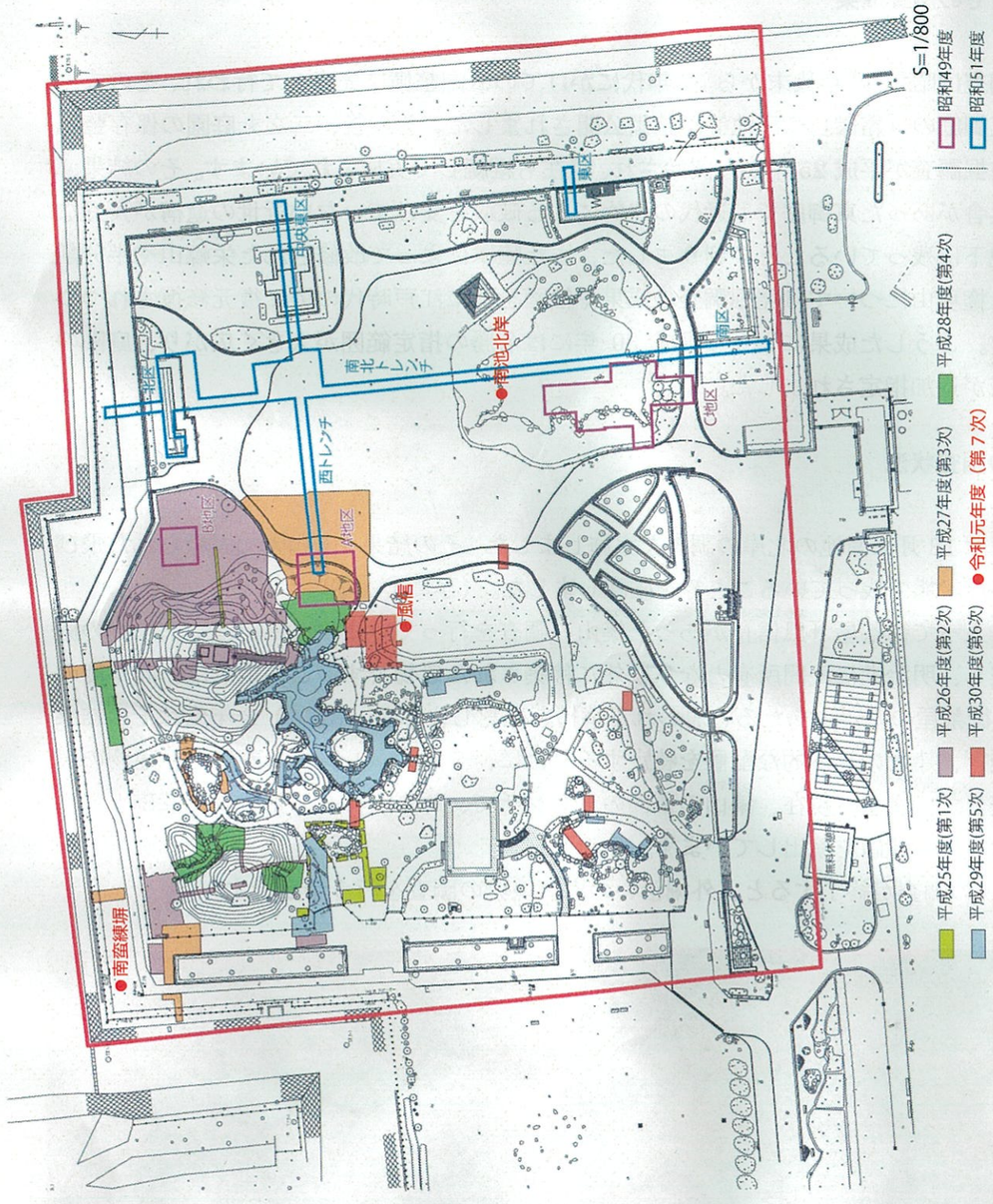
3. 今年度の調査状況

今年度は 12 月に南池の北岸の調査を実施しました。その結果、三和土で固められた飛び石が良好な状態で残っていること等を確認しました。（写真①、②）

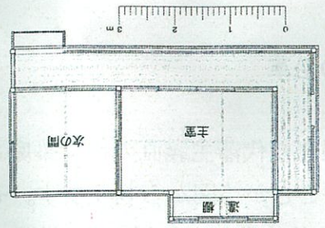
２月に入って御茶屋「風信（ふうしん）」があった築山（つきやま）の調査を行っています。風信は、文政期の庭園に存在し、明治期に民間所有となり城外に移築された建物です。この地点は、昨年度の調査で、御茶屋の基礎にあたると思われる遺構を確認しました。（図④）今年度はその結果を引き継ぎ、建物の具体的な配置を特定するために、５本のトレンチを設定し、建物の痕跡を調査しています。現在、築山（つきやま）の頂部のトレンチで、昨年度確認した建物の基礎と対になると思われる基礎を検出しています。

この箇所の調査が終了すると、外堀沿いの南蛮練塀の調査を行う予定です。

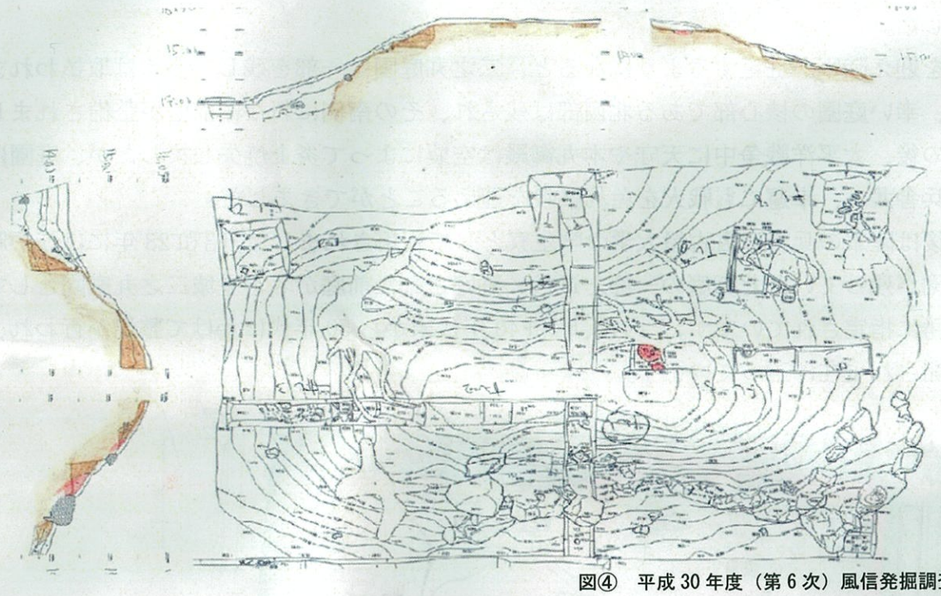
写真①、②　南池北岸飛び石



図②　二之丸庭園の発掘調査地点



図③　現　風信平面図



図④　平成 30 年度（第 6 次）風信発掘調査成果

着色部：建物の基礎にあたると思われる遺構

写真③　風信表土剥ぎ後

写真④　風信作業風景